

誰がどこで決めたのか！ 一方的な押し付けの基本動作 これが安全対策ならあまりにもお粗末

7月17日、亀山運輸区の組合員がワンマン列車乗務中に左側のドアを右手で扱い、「基本動作不良」で日勤にさせられました。昨年12月にワンマン列車の基本動作が変更され、ドアを扱う手が決められました。この変更に対し、現場の運転士からは、『かえって失敗しやすくなった』『不自然であり危険である』などの声が多くあがっています。それもそのはず、この変更は実態を無視し現場で働く運転士の声聞くことなく進められてきたのです。

安全の哲学とは、

安全を確立するには、そこで働くものの声を聞くことこそが対策の第一歩です。これが安全の哲学です。そのようなことは、一切考えず勝手に決めた対策を守らせることのみ重点を置き、できていなければ日勤教育を行う。これでは安全を守る風土は生まれるはずはありません。

その証拠に最近、各職場では小さなミスが多く発生しています。乗務員の責任で片付けられ、真の原因は究明されません。だから、生まれる対策は、乗務員の負担ばかりが強しられ、決して安全のためにはなっていません。

7/17に合わせた添乗。

7/17は「不当弾圧を許さない集会」の当日でした。降ろされた組合員は地本執行委員であり偶然としてもあまりにもタイミングが良すぎます。区長自らが添乗していたのは東海労組合員に対する攻撃の現れです。

**安全を確立するために私たちは働く者の立場に立って対策を考えます
安全を社員管理や労組破壊の道具にするものとは私たちは徹底的に闘います**